

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 6 日現在

機関番号：17501

研究種目：基盤研究(B)（海外学術調査）

研究期間：2017～2021

課題番号：17H04524

研究課題名（和文）消滅危機に瀕する満洲語の記録保護・教育と継承・再活性化への取り組み及び実態の解明

研究課題名（英文）Activities for Archiving, Preservation, Education, Inheritance and Revitalization of the Endangered Manchu Language, as well as clarifying the current situation of it

研究代表者

包 聯群 (BAO, Lianqun)

大分大学・経済学部・教授

研究者番号：40455861

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 6,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は中国東北地域における満洲人の言語と文化の保護、継承の実態を調査したものである。満洲語口語が中国語の影響を強く受け、言語変異の現象が発生している実態を明らかにした。また、絶滅の危機に瀕している言語を保護し、言語の継承を促進するために、満洲語口語簡易テキストを作成し、満洲語による会話や物語のコンテストを行い、満洲語の継続的な学習に貢献した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

消滅に瀕する満洲語口語の特徴を明らかにすることによって、言語接触による言語変異の実態が解明され、アジア地域における言語接触による言語変異データの不足を補うことができ、理論的枠組の再構築に役に立つことになる。満洲語の保護や再活性化の活動を通して、人々が自分の言語や文化に誇りを持ち、地域社会の持続的な発展や平和にもつながることができる。

研究成果の概要（英文）：This study investigates the current situation of the Manchu language and culture inheritance in Northeast China. It demonstrates that the spoken Manchu language in China is full of variation caused by strong influences from Mandarin Chinese. In protecting the endangered language and promoting language inheritance, we compiled a simplified Manchu language textbook and organized Manchu dialogue and story-telling competitions, which served the local community for their continuous learning of the Manchu language.

研究分野：人文学

キーワード：満洲語 危機言語 言語保護 言語継承 言語政策 満洲語教育 再活性化 三家子満族村

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

1996年に国際連合教育科学文化機関(ユネスコ UNESCO)が消滅危機に瀕する言語をリストアップした地図「Atlas of the World's Languages in Danger」を発行して以来、関連研究が盛んになってきた。しかし、消滅危機に瀕する満洲語口語に関する言語接触や言語継承などの視点による研究がそれほど行われておらず、高齢化が進むことにより満洲語母語話者が年々減少傾向にあり、満洲語の記録保護や継承活動などが至急に取り組むべき課題であった。

## 2. 研究の目的

消滅危機に瀕する満洲語の記録保護・教育と継承・再活性化への取り組み及びその実態を解明することが本研究の目的であった。即ち、黒龍江省三家子(ilan boo)村の満洲語口語を調査し、調査によって得られたデータに基づき、簡易テキストや民話集を作成し、満洲語の学習に役立たせ、満洲の言語と文化を満洲人自身が次世代に継承していくための活動も行い、地元政府主導による満洲語の教育状況や継承などへの取り組みの実態を解明し、言語シフト(Fishman1991)についても検証することである。

## 3. 研究の方法

まず、フィールド調査にて、満洲語口語の録音、録画、インタビュー調査をし、授業参加、学習活動の観察、言語継承に関する実践活動の参加などを行う。

次に先行研究や調査データに基づき、言語接触の視点による考察を行い、言語接触による言語変異状況について分析し、先行研究の理論的枠組の検証を行う。

## 4. 研究成果

本研究は中国における消滅の危機に瀕する黒龍江省三家子(ilan boo)村の満洲語口語を記録保存し、音韻的・形態的・統語的な特徴を分析し、満洲語口語の実態を明らかにした。また、コミュニティ(社会人)用テキスト(『満語会話』)を作成し、満洲人自身による言語文化の保護や継承につながり、母語話者による満洲語の教授、習得プロセスなどを観察し、継承の実態を解明できた一方、教科書のミスも指摘し、満洲語による会話や物語のコンテストも行い、満洲語の再活性化や学習活動にもプラスの役割を果たした。また、WeChatによる満洲語学習のネットワークの形成は、満洲語の再活性化に役立ち、社会人自身による言語文化の継承活動の環境整備がある程度までできたと言える。さらに東北地域の地元政府主導による満洲人の言語や文化継承の実態が解明され、言語シフトに関する枠組(Fishman1991)についても検証を行い、類似点がある一方、異なる部分も存在することがわかった。

### (1) 満洲語口語の特徴

#### 音韻的特徴

時間を軸にすると、話者自身と話者同士間の音韻面の差異が認められることがある。例えば、話者自身による同じ単語における子音(rとl)の交代現象、異なる母音の使用などがあり、物語や自伝などの語り時間が時間の経過によって変化が見られることがある。また、話者同士間でも差があることが確認された。これは言語的に不安定であることを示唆している。また、書きことばの短母音が満洲語口語において二重母音として用いられることが確認された。

#### 形態的特徴

満洲語口語では、接尾辞の機能が大幅に拡大されることが確認された(包2021)。書きことばのninggeは、「形容詞」に後続されるが、口語においては、「形容詞」だけではなく、動詞や名詞

などにも接続され、文法機能が拡張されていることがわかった。こうしたカテゴリの「簡略化」現象が他の少数言語にも見られるが、これを、カテゴリの「一本化」とも捉えることができ、言語接触による簡略化（simplification）現象であると言える。また、満洲語口語には方向を示す接辞もあることがわかった。これは先行研究（季永海・劉景憲・屈六生 1984）の「ボイス」という見方に対して、異議を唱えたことになる。さらに接辞の使用において、話者間で相違点があることが明確になった。

#### 統語的特徴

満洲語口語は中国語の影響を強く受け、「動詞 V + 助動詞 AUX」という本来の構造が中国語と同様に「助動詞 + 動詞」(包 2021)への変異事例がある。例えば、中国語の義務を示す助動詞「dei 得」(すべき)が満洲語に借用され、そのまま動詞の前に置かれて使用されている。これは主に中国語からの借用によって発生し、中国語の影響を受けたことが明らかである。

中国語からの文法要素の借用も多くみられる。例えば、中国語から文法要素「就」(もう、すぐ)、「可是」(しかし)、「也」(も)、「和」(と)などの接続詞が借用されている。言語接触の視点から、こうした満洲語と中国語の接触はすでに大量の文法構造の借用段階に達しているという結論を得た。また、中国語から判断動詞「是」(は...です)まで取り入れられていることが明らかになった。即ち、満洲語には本来主語を示す「主格」の標識がなく、一般的に「ゼロ」標識であるが、中国語の影響を受け、「是」を用いることで主格の「標識」の役割を果たしていると言える。また、他の文法要素とセットで借用されているケースも確認されている。満洲語口語において、コード切り替え現象が確認され、満洲語口語と中国語によるバイリンガル動詞（Bilingual Verb, Muysken 2000）も構成されていることがわかった（包 2017、2023）。さらに中国語の「助詞・助動詞・類別詞」などの借用も確認された。中国語の形容詞や名詞に後続される助詞「de 的」及び擬態（擬音）語に後続される助詞「de 地」も満洲語に借用され、意味的に抽象化された類別詞「ge 個」も指示詞とともに満洲語口語に取り入れられていることがわかった。

#### 語彙的特徴

言語接触による語彙の借用はどの言語でも起こりうる普遍的な現象である。ただし、借用の度合いや言語接触の相違及びその他の背景などによってそれぞれ異なる。三家子村の満洲民話・伝説などの資料には中国語から借用した語彙が多くあることがわかった。中国語から名詞、指示詞、形容詞、動詞、副詞などの借用があり、一般的に借用が難しいと言われている語彙類も含まれる（指示詞、動詞など）中国語方言の語彙も多く用いられていることが確認できた。

上述のように、満洲語口語には、中国語からの借用語が多数あることが明らかになった。また、音韻的、形態的、統語的にも中国語の影響を強く受けている事実が見えてきた。危機言語「満洲語口語」の言語データからは Thomason, & Kaufman(1988)、Thomason(2001)で言及する言語接触が起きた際の「借用段階」の枠組にある「深度」接触の特徴を反映しており、言語接触による言語変異の最も「高い段階」に入っていると考えられ、当該枠組を検証することもできた。

#### (2) 言語教育・言語継承など

黒龍江省三家子 (ilan boo) 村の満洲語口語データに基づき、社会人用簡易テキスト（満洲語会話）を 50 冊程度作成し、村民に無料で配布した。これは満洲人自身による言語文化の保護・継承につながり、満洲語の次世代への言語継承にも役に立つと考えられる。また、三家子 (ilan boo) 村にて満洲語の学校教育、学習状況を把握し、母語話者による満洲語の教授、習得プロセスなど（包 2022）を観察し、満洲語の保護や継承の実態などを解明でき（包 2019a）、満洲語仮教科書（口語）の改善を提案し、満洲語による会話、物語コンテストなどを行うことによって、満洲語の再活性化へとつながり、また満洲語学習の社会ネットワークの形成、WeChat による満洲語の

学習状況、言語と文化継承活動の環境整備状況などの確認を行い、地元政府による満洲人の言語文化継承の実態を明らかにした（包 2019b）。

以上のデータに基づき、Fishman（1991）が提唱した「逆行的言語シフト諸段階」を検証することができ、民話集と言語特徴などを分析した『満洲の民話と伝説—黒龍江省三家子村の満洲語とその特徴』（包 2023）を出版した。また、国際日中ワークショップを開催することによって、研究成果を日本から発信でき、国際地域社会にもある程度還元できたと言える。

#### < 引用文献 >

- Muysken, Pieter. 2000. Bilingual verbs . In *Bilingualism Speech—A Typology of Code-Mixing*, Muysken (ed.), 184-220.
- Thomason, Sarah Grey. 2001. *Language Contact - An introduction*, Washington, D.C.: Georgetown University Press.
- Thomason, Sarah Grey and Kaufman, Terrence. 1988. *Language contact, creolization, and genetic linguistics*, Berkeley and Los Angeles: University of California Press.
- Fishman.1991. Reversing Language Shift Theory and Practice of Assistance to Threatened Languages. Clevedon Multilingual Matters.
- 包聯群 2017 「1960年代の満洲語口語にみられる中国語の影響—『満語口語研究』を中心に—」、『中日言語研究論叢』（楊凱栄教授還暦記念論文集刊行会）457-471頁。東京：朝日出版社。
- 包聯群 2019a 「満洲語の保存と継承の動向—三家子村を事例として—」、『現代中国における言語政策と言語継承』（第四巻）、包聯群編著、149-154頁。東京：三元社。
- 包聯群 2019b 「中国における満洲語継承の実態」、『東アジア社会教育研究』, 第24号。東京・沖縄・東アジア社会教育研究会（TOAFAEC）発行。147-156頁。
- 包聯群 2021 「満洲語継承活動と現代満洲語の言語特徴—中国黒龍江省三家子村の2013-2020言語調査報告」、『現代中国における言語政策と言語継承』（第五巻）、包聯群編著、173-202頁。東京：三元社。
- 包聯群 2022 「満洲語習得者の音韻面における相違点—中国黒龍江省富裕県三家子村を事例として—」、『現代中国における言語政策と言語継承』（第六巻）包聯群編著、192-211頁。東京：三元社。
- 包聯群 2023 『満洲の民話と伝説—黒龍江省三家子村の満洲語とその特徴』（JSPS 番号22HP5060）東京：三元社。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 包聯群	4. 巻 7
2. 論文標題 言語継承における言語（音声）景観の役割 少数言語特に無文字危機言語を事例に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 現代中国における言語政策と言語継承 (Language Policy and Language Inheritance in Modern China)	6. 最初と最後の頁 79-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 包聯群/井上史雄	4. 巻 7
2. 論文標題 言語継承における言語景観と五官 コミュニケーションにおける視覚情報の優位性	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 現代中国における言語政策と言語継承 (Language Policy and Language Inheritance in Modern China)	6. 最初と最後の頁 1-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 包聯群	4. 巻 6
2. 論文標題 満洲語習得者の音韻面における相違点 中国黒龍江省富裕県三家子村を事例として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現代中国における言語政策と言語継承 (Language Policy and Language Inheritance in Modern China)	6. 最初と最後の頁 192-211
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 包聯群	4. 巻 5
2. 論文標題 満洲語継承活動と現代満洲語の言語特徴 中国黒龍江省三家子村の2013-2020言語調査報告	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代中国における言語政策と言語継承 (Language Policy and Language Inheritance in Modern China)	6. 最初と最後の頁 173-202
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 包聯群	4. 巻 24
2. 論文標題 中国における満洲語継承の実態	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東アジア社会教育研究 (TOAFAEC)	6. 最初と最後の頁 147-156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 包聯群	4. 巻 4
2. 論文標題 満洲語の保存と継承の動向 三家子村を事例として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代中国における言語政策と言語継承 (Language Policy and Language Inheritance in Modern China)	6. 最初と最後の頁 149-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 包聯群	4. 巻 -
2. 論文標題 1960年代の満洲語口語にみられる中国語の影響 『満語口語研究』を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 中日言語研究論叢 (楊凱栄教授還暦記念論文集刊行会)	6. 最初と最後の頁 457-471
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 9件)

1. 発表者名 包聯群
2. 発表標題 中国黒龍江省における満洲人非母語話者の満洲語習得プロセスとその言語特徴
3. 学会等名 第6回アジア未来会議 (Asia Future Conference, AFC 6) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 包聯群
2. 発表標題 『三合語録』『初学指南』等の文献における中国語の対訳及び言語接触について
3. 学会等名 内モンゴル大学第一回文献学国際学術シンポジウム(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 包聯群
2. 発表標題 少数言語の次世代への継承に言語景觀が果たす役割 無文字(サウンドスケープ)危機言語も視野に
3. 学会等名 第十一回 日中国際ワークショップ 現代中国における言語政策と言語継承 言語継承における言語景觀の役割(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 包聯群
2. 発表標題 満洲語とダグル語の言語接触事例
3. 学会等名 第十回 日中国際ワークショップ 現代中国における言語政策と言語継承 多言語の視点から(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 包聯群
2. 発表標題 三家子村の満洲語口語 音韻・形態的特徴に焦点を当てる
3. 学会等名 第18回国際都市言語学会年次大会(The 18th Annual Conference of the International Association of Urban Language Studies)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 包聯群
2. 発表標題 中国における満洲語継承活動の現状と言語特徴 三家子村を中心に
3. 学会等名 第八回 日中国際ワークショップ 現代中国における言語政策と言語継承 少数言語を中心に（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 包聯群
2. 発表標題 満洲語教育と言語文化継承の実態 中国吉林省伊通満族自治県を事例として
3. 学会等名 海外学術調査フォーラム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 包聯群
2. 発表標題 中国東北地域における少数言語の保護と継承の実態 満洲語・ダグル語を事例として
3. 学会等名 第16回国際都市言語学会年次大会（IAULS、ULS16）& 第七回 日中国際ワークショップ 現代中国における言語政策と言語継承 - 少数言語について考える（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 包聯群
2. 発表標題 危機とは何か（絶滅危機の言語 Endangered languages）セッション組織・発表
3. 学会等名 第四回アジア未来会議（The Fourth Asia Future Conferenc AFC4）（国際学会）
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 包聯群
2. 発表標題 中国の少数民族言語 満洲語教育と教科書の問題について
3. 学会等名 第三回中国言語政策と言語計画に関する学術シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 包聯群	4. 発行年 2023年
2. 出版社 三元社	5. 総ページ数 396
3. 書名 満洲の民話と伝説 黒龍江省三家子村の満洲語とその特徴	

1. 著者名 包聯群	4. 発行年 2023年
2. 出版社 三元社	5. 総ページ数 323
3. 書名 現代中国における言語政策と言語継承 (Language Policy and Language Inheritance in Modern China) (第7巻)	

1. 著者名 包聯群	4. 発行年 2022年
2. 出版社 三元社	5. 総ページ数 223
3. 書名 現代中国における言語政策と言語継承 (Language Policy and Language Inheritance in Modern China) (第6巻)	

1. 著者名 包聯群	4. 発行年 2021年
2. 出版社 三元社	5. 総ページ数 270
3. 書名 現代中国における言語政策と言語継承 (Language Policy and Language Inheritance in Modern China) (第5巻)	

1. 著者名 包聯群	4. 発行年 2019年
2. 出版社 三元社	5. 総ページ数 212
3. 書名 現代中国における言語政策と言語継承 (Language Policy and Language Inheritance in Modern China) (第4巻)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	原 聖  (HARA Kiyoshi)  (20180995)	女子美術大学・芸術学部・客員研究員   (32626)	
研究分担者	見倉 徳和  (KOGURA Norikazu)  (70597757)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授   (12603)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計6件

国際研究集会 第十一回 日中国際ワークショップ 現代中国における言語政策と言語継承 言語継承における言語景観の役割	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 第十回 日中国際ワークショップ 現代中国における言語政策と言語継承 多言語の視点から	開催年 2021年～2021年

国際研究集会 第九回 日中/英国際ワークショップ 現代中国における言語政策と言語継承 トランスラ ンゲージングについて考える(The 9th Japan-China(UK) Workshop)	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 第八回 日中国際ワークショップ 現代中国における言語政策と言語継承 少数言語を中心 に	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 第七回 日中国際ワークショップ 現代中国における言語政策と言語継承 少数言語につい て考える	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 第六回 日中国際ワークショップ 現代中国における言語政策と言語継承 少数言語(ダグ ルを中心)について考える	開催年 2017年～2017年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
中国	南京大学	中国社会科学院	内モンゴル大学	他3機関